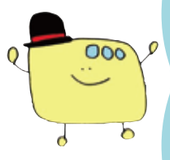
# おめでとうメッセージ♪

読者の皆様をはじめ、取材やご寄稿いただいた皆様など、多くの皆様に支えられて30号まで歩んできました。この場を借りて、心よりお礼申し上げます。また、これまでに掲載のあった団体の皆様より、お祝いメッセージをいただいております。一部ではありますが、ご紹介いたします。

## チーム街スタボランティアスタッフ



広報誌「ユースサービス」30号の発行おめでとうございます。青少年活動センターのこれからますますの活躍を期待しております。我々「チーム街スタ」もがんばりますので、サポート、見守りをよろしくお願いいたします。

## NPO法人若者と家族のライフプランを考える会（略称　LPW）

「ユースサービス」30号発行、おめでとうございます。
2013年発行の15号で私たちLPWの活動を紹介していただきました。あれから6年目の春を迎える今、LPWでは2つの就労グループ「あーとすぺーす絵と音」「京都ユースオフィス」を中心に「アートや音楽を通した社会参加」を応援しています。これからもよろしくお願いします。

## 祝! 創刊30号

## こども自然・暮らし体験クラブスタッフ

広報誌30号発行おめでとうございます。
2011年発行の6号で取り上げてもらった他、かわら版でも度々掲載をしていただきました。他の団体なども載っていて、そこに並ぶことで私たちも刺激を受けていました。これからもこしたかを盛り上げていくので取材よろしくお願いします!

## ART-GROUP ユレル

「ユースサービス」30号おめでとうございます!
色々なジャンルの活動が紹介されていて、毎回楽しみにしています。末永く続刊を祈念いたします。私たちはアートグループとして、いろいろなセンターでの展示や冊子のデザイン など、創作に関わる活動をしています。今号でもご紹介いただいていますので、ぜひご覧ください。

## CLUB ATTRACTION

広報誌30号おめでとうございます。
代表は19号、学生たちは20号、24号に載せていただきました。いつも刺激を受けることが載っていて「負けずにがんばろう」「吸収してがんばろう!」と思ってみています。
私たちもまた載せてもらえるような魅力的な活動を展開してまいります。

## NPO法人京都舞台芸術協会

「ユースサービス」30号の発行おめでとうございます!
人と人とが触れ合える、ふっと息をつける、自分の悩みを吐き出せる、そんな場所が年々少くなっていく中、ユース施設は、演劇やダンスと同じく人と人が向き合うことのできる、貴重な場だと思います。

## 特定非営利活動法人 こうべユースネット

京都市ユースサービス協会の設立30周年並びにYOUTH SERVICE30号の発行、誠におめでとうございます。「ユースワーカー」の養成に、ひたむきに取り組まれている皆さんとともに、日本のユースワークについて関西から発信し、その意味や意義を広めていきましょう!

## 公益財団法人 京都地域創造基金

この度は創立30周年おめでとうございます。京都府立の高校と事業を行なう際には、貴会が培ってきた学校との信頼関係のおかげで成功することができました。今後のご活躍をお祈り申し上げます。

## 親子支援ネットワーク♪あんだんて♪

「ユースサービス30号」発行おめでとうございます!!
親御さんの支援をしている親子支援ネットワーク♪あんだんて♪としては、思春期から青年期に親以外の第三者の支援の重要性を日々感じております。貴協会の活動は大変心強く、益々のご活躍をお祈り申し上げます。

## 特定非営利活動法人 京都教育サポートセンター

この度、広報誌「ユースサービス」が30号を迎えられたこと、大変喜ばしく思います。
広報誌の内容には毎号私にとって気づきや学びがあり、有意義に読ませていただいております。
今後も末永くの続刊を願っております。

## 京都BBS連盟

広報誌「ユースサービス」30号発刊、心よりお喜び申し上げます。未来ある若者へ共に手を差し伸べ、若者と共に歩んだ轍に、我々京都BBS連盟も携わることができた事、大変嬉しく思っております。益々の貴団体の発展とご多幸をお祈り申し上げます。

## 勇気の出るライブ実行委員会

「ユースサービス」30号発行おめでとうございます!
ライブ交流会とギター教室が活動です。活動の中で最近特に発信力の大切さを痛感しております。発行に対する関係者、編集者の方のご苦労、頭がさがる思いです。ありがとうございます。今後ともよろしくお願い致します。

第一学院独自のプラスサイクル指導で
自分を好きになる、未来が変わる!
中3、転・編入のご相談を随時受け付けております。お気軽にお電話ください。

自分に合ったスクールライフ
通学型 ●毎日通って高校生活を満喫 ●週1～3日マイペースに登校
通信型 - Mobile HighSchool - ●時間や場所を選ばず学ぶ

タブレット端末を活用した学習
ICT教育の推進による
学習意欲の向上　学力の定着
iPadは米Apple Incの登録商標です。

仲間ができる!笑顔が増える!

心強い仲間たち（ピアサポーター）

様々なサークル・イベント

自分に合った学習
●中学校の復習から大学受験対策まで
●進路対策も万全（進学・就職）
●「セルフケア講座」で社会に出て役立つストレス対策

進路決定へのこだわり
●大学進学者 583名
●専門学校等進学者 622名
●就職者 360名
（平成29年　進路実績）

進路定着・自立サポート
●キャリアサポートセンター
●チームD1（卒業生ネットワーク）

生徒第一…だから
第一学院高等学校
通信制高校（広域通信・単位制）
高卒認定合格を目指すコース（通学・通信）もあります。
京都市営地下鉄「五条」駅①番出口徒歩2分（京都駅より1駅）
〒600-8418 京都府京都市下京区烏丸通松原下ル五条烏丸町407-2 烏丸KT第2ビル5F
京都キャンパス TEL 075-371-3007　全国52キャンパス（平成28年7月時点）
www.daiichigakuin.ed.jp 第一学院高校 検索

特集

# 若者×30

広報誌『ユースサービス』が、このたび30号を迎えました！　読者の皆様、これまで取材や寄稿等にご協力いただいた皆様に、感謝いたします。
さらに、2018年3月29日に、京都市ユースサービス協会（以下、協会）が30歳を迎えました!!　改めて関係者のみなさまに御礼申し上げます。
ということで！　今回の特集は、“協会と若者にまつわる30のコト”をコンセプトに据えて、数字遊びをしてみました。ご笑覧ください。

## 初めの1歩!? ユースサービスの始まり

京都市では1973年に青少年育成について、「非行対策」から「ユースサービス」へ発想を転換するよう提言が出されました。これが、京都市青少年活動センター（以下、センター）の設立に繋がっています。現在、他自治体でも注目され、ひろがっています。

## 協会をよく知る2人組 世界大会1位 姉妹タップデュオ 華～Puspa～

姉・浄華が中学校の3年生を送る会の練習で友達と利用したのがセンターとの出会いでした。妹・優華の中学入学を機に2人で利用し始め、それ以来10年以上お世話になっています。普段のスキルアップはもちろん、生徒さんのレッスンも。また国際大会や公演の前など、大事な舞台の前は「開館とともに来て、閉館とともに帰る」なんてこともありました（笑）

センターは、今年で16周年になる私たちにとって、**もう一つの大切な居場所です**。センターがなければ、今の私たちはありません。活動を受け入れ応援してくれる場所があることに、心から感謝しています。これからもよろしくお願いします！

## 3食、食べてる? 若者と食の現状を伝える冊子を発行しました

自分で食事を調達することができる年齢であると、「食に課題がある存在」として認識されにくい若者たち。しかし、「夏休み期間中の食事の実態調査」を実施したところ、若者の1/3が朝食を摂っておらず、また、約半数が1日3食のうち、2食以上を「ひとりで食べている」と回答していて課題がありそうだと分かりました。

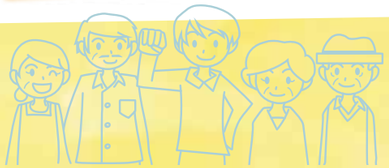
そこで、新たな視点や運営のヒントを得たり、**食の取り組みに「若者世代」を巻き込むことへの理解や共感に繋げることを狙い**、この冊子を発行しました。

## 4代目理事長　安保千秋

「私は、弁護士をしており、子どもや若者の人権擁護や成長発達への支援活動をしています。理事の依頼があった際、はじめて、青少年活動センターの様々な活動が、**若者が自主的な活動を通して成長への経験の機会を持てるように支援する**というユースサービスの理念に基づいていることを知り、新鮮な感銘を受け、今もその感銘は私の活動の源になっています。若者を取り巻く環境等の変化に伴い、協会の活動も変化することは当然ですが、どのような変化があっても、若者の主体性を真ん中に置く活動であることが協会の存在意義だと考えています。」

## 京都市民の5人に1人が若者

“京都は若者に寛容な街”と言います。「ほんまにそうなん?」と思う人もいるかもしれませんが、市民の5人に1人（正確には2017年統計で20.2%）が若者（13歳から30歳）で、約30万人。とても多くの若者が暮らし、京都の今とこれからを支えていることは確かです。**もっともっと、若者が暮らしやすい・生きやすい京都**を作っていけたら良いなと思います。



## 2006年 京都若者サポートステーション開設

若者サポートステーション（サポステ）は、学校を出た後で働くことに一歩踏み出しにくい若者をサポートする機関です。厚労省がこの事業を始める時、「協会でやってくれないか?」とのお話で京都でも開設することになりました。**今では年間3,000人を超える若者の利用**があり、個別面談から始まってグループ体験や仕事体験といったプログラムを手がかりにしながら、自らの課題に向き合ったり、社会との折り合いを考えたりしつつ、一歩を踏み出しています。昨年からは南丹エリアでもサテライトを設置して活動範囲を広げています。

仕事体験の様子

## 京都市には7つの青少年活動センターがあります

京都市の青少年活動センターは、元々は「青年の家」という名前の、働く若者の余暇活動の施設でした。それが、2000年になって「高校生や大学生も使える施設にしよう!」という大変更があって、名称も青少年活動センターと変わったのです。

たった7カ所、かもしれないけれど、**中高生から30歳までと幅広い若者の活動拠点を持っている都市は、多くありません**。若者が家や学校、仕事場とは別の場所で、楽しんだり表現したり、社会参加を通して学んだりする機会づくり・場づくりをするのが、センターの役割。あまり派手じゃないけれど、若者が生きやすいまちづくりに貢献しています!

## 2008年、ユースサービス協会 KES認定獲得!

KESって皆さんご存じですか?　京都発の環境認証制度として、世界的にも有名です。これが作られた契機は、なんと言ってもCOP3（気候変動枠組条約第3回締約国会議）。この、環境（温暖化）問題への地球規模での取り組みを考える国際会議を機に、市民も行政も企業も含めた温暖化対策が話し合われ、良い取り組みと成果を出した組織を認証する仕組みとしてKESが誕生しました。協会もさまざまな工夫をして、**組織全体で環境負荷の低い運営を考え、認証**を受けることが出来ました。（認証継続中）

## 2009年、リーマン・ショック 内定取り消し

アメリカの投資銀行「リーマン・ブラザーズ・ホールディングス」の経営破綻による世界的金融危機（2008年9月15日）は、日本にも大きな影響を与えました。短い間に急激に失業率は上昇し3%台だった失業率が2009年7月には5.6%「統計開始以来の高水準」。2009年の就活では、内定を一旦出したが後で取り消す「内定取り消し」が多発しました（厚労省発表：**400社、1,800人以上**）。会社の既存の社員を守るためとはいえ、これから社会人になるという手前で裏切られ、将来への希望を奪い、多くの若者の心を深く傷つけるできごとが起きたのです。

## 2010年 京都市子ども・若者総合相談窓口、支援室開設

30代までの若者やそのご家族の様々なしんどさについて一緒に考え相談にのったり、必要な情報や機関を紹介する窓口です。窓口と連携している「支援室」の**支援コーディネーターは、しんどさが重なり動きにくいと感じる利用者と一緒に動いたり、環境を整えたりサポート**をします。また、NPOほか若者をサポートするたくさんの機関が参加する「京都市子ども・若者支援地域協議会」と連携して、ひとりひとりの状況に応じたサポートを考え取り組んでいます。

## 施設利用、無料なのは22歳まで

センターは、**市内在住・在勤・在学の13歳〜22歳が8割を占めるグループや個人の場合、無料**で使ってもらえます！　ミーティングに使える会議室やダンス練習に使えるスタジオ、調理室やスポーツルームもあります。ひとりでも友達とでも、たくさん使ってください！　**23歳からは有料**になりますが、とってもリーズナブルなので続けて使ってネ。

## 平成21年『広報誌ユースサービス』創刊！

**「若者と支援者をつなぐ機関誌」**として平成21年（2009年）に創刊。記念すべき1号の巻頭インタビュー「不安を抱える現代の若者たち〜立命館大学 野田正人教授に聞く〜」「現代の若者の自立へ向けて社会の変化とユースサービスを考える」では、「若者の貧困」についても言及されています。読み返すことで新たな発見があることも魅力ですので、ぜひ一度読み返してみてください。（旧号は協会ホームページから閲覧できます）

## 第19期ユースワーカー養成講習会

ユースワークの概論、青少年に関わる上での自己理解など、**若者の成長を支えるユースワーカーとしての基礎を2日間で学ぶ**養成講習会は、2018年3月に第19期を迎えました！　全国の若者支援者が集まり、ともにスキルアップしています。年に2回の京都開催の他、名古屋や横浜、札幌をはじめとする出張講座も行っています。

**過去参加者の声**

普段の自分自身を見つめ直すきっかけにもなり、勉強になった。違う所属の人と交流できたことも新しい発見や刺激になった。

改めて、固定概念で物事を見ているなと痛感しました。職場で色々と活かしていきたいと思います。

## 遊びの選択肢がさらに増える20歳

「お酒はハタチになってから」

標語やCMで見かけるように、20歳になると**お酒をはじめ、タバコや競馬や競輪、競艇など**ができるようになります。飲み過ぎ、吸い過ぎなど、「〇〇過ぎ」には大きなリスクが伴います。20歳になれば、出来ることが増える半面、社会的な「責任」を伴うということでもあります。

## 選択肢と責任が増える18歳

18歳になれば**選挙権**が得られます。**普通免許を取得**できるようになります。はたまた、**夜のゲームセンターやパチンコ店で遊ぶこともできます。過激な表現のあるR18指定の作品に触れること**もできます。一言でいえば「遊び放題」。同時に「責任」を持った行動も求められますのでご注意を。

## 17拠点で実施！中学生学習支援事業

「高校に進学できるのって当たり前？」思春期や反抗期等、複雑な時期にいる中学生が家庭の様々な困難のために“放置”されている現状をみたケースワーカーの自主的な活動として、2006年に学習支援事業が始まりました。

2010年より京都市と京都市ユースサービス協会が事業化し、**様々な事情で学習環境の整いにくい状態にある中学生らを対象に高校進学のお手伝い**を市内全区17拠点で行っています。詳細はVol.27をご覧ください！

## 恐るべき14歳たち

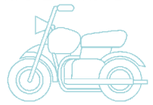
スポーツ界や将棋界を中心に「恐るべき14歳たち」が活躍していますね。

21世紀生まれで初となるプロ棋士入りを果たしたのは**藤井聡太棋士**。小学生で詰将棋解答選手権のチャンピオン戦で優勝、14歳でのプロ入りは62年ぶりだそうです。また、**卓球の張本智和選手**はITTFワールドツアー・チェコオープン（男子シングルス）で優勝。2018年も全日本卓球選手権大会優勝と輝かしい成績を残していますね。

センターでも卓球や将棋での利用は多い中、未来の「恐るべき14歳」もいるかもしれないですね……!?

## 尾崎豊の「15の夜」

**若者にストレートに届く**歌を残し走り抜けた尾崎豊の代表作。

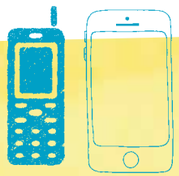


## 平成16年と平成30年 若者のなにが変わった？

若者をめぐる世間の「アレコレ」は14年前と何が変わったのでしょうか。

**平成16年（2004年）はニンテンドーDSとプレイステーションポータブルが発売**となり、若者の間で大人気に。流行語大賞では小説家・綿矢りさ氏（京都市左京区出身）の著作「蹴りたい背中」がランクイン。大学在学中の19歳で芥川賞を受賞し話題になりました。

**平成16年（2004年）の携帯電話普及率は68.7%ですが、現在はほとんどがスマートフォン**になり、友人との交流や娯楽、恋愛などスマートフォンを中心とした生活に大きく様変わりをしたように思います。



## 青少年は13歳から

センターは13歳から施設を利用することができます。実際に**13歳から利用してくれている若者たちへ**インタビューを試みました！

Q センターに来たきっかけは？
【中京／卓球をしに来た中学生3人】
A 勉強をするために初来館。その時に「卓球セット買ったで」とユースワーカーに話しかけられ、卓球をやってみた。それからずっと今では卓球しにリピート利用するようになっています！
Q あなたにとってセンターとはどんなところ？
【南／事業参加の中学生】
A テニスとか卓球とかで自由にできる遊び場！
Q 一言ちょうだい！
【山科／中学生3人】
A どこ行く？ 困ったらやませい！

## 平成12年度 京都市ユースサービス協会の事務局が中京区に移設

昭和63年（1988年）に京都駅前に開所した**「京都市青少年活動センター」は平成12年度（2000年）をもって閉所**し、現在の中京青少年活動センター内に協会事務局が移設されました。

## ユースサービスと3.11

甚大な被害をもたらした2011年3月11日の東日本大震災を受けて、協会ではこの年に**「被災地・被災者への支援に向けた取り組み」「震災の影響で京都に移ってきた若者に向けた取り組み」「京都に住む若者と震災支援活動をつなぐ取り組み」**の3つの柱を立て活動を開始しました。

翌年2012年には震災支援をする京都の若者への支援を行いました。

震災に関する若者の思いを動画にした「きょうと若者アーカイブ2011〜震災、その後〜」（http://ys-kyoto.org/blog/archive/）をぜひご覧ください。

## 30年の節目の年、感謝の気持ち これからのビジョン、未来を考え 伝える機会として1年間を通じて 記念事業を実施していきます。

### 30周年記念式典

京都市ユースサービス協会は、「ユースサービス」の理念を全国に先駆けて掲げ、7ヵ所の青少年活動センターでの事業をはじめ、青少年を支援する様々な取り組みを進めています。

協会の設立30周年を機に、日頃の感謝の意を表すと共に、協会及び青少年支援の関係者の皆さんと**今後の活動機運を一層高めるため、2018年夏（予定）記念式典を開催**します。

### 若者文化発信事業

“若者の「新しい価値観」を発信していく” ことを目的に、洛北ロータリークラブ45周年記念事業と共催して開催します。

- 事業名 **「ユスカル」ユースカルチャー**（仮称）
- 開催日 **秋**
- 場　所 **ロームシアター京都（ノースホール・スクエア）**
- 主　催 **京都市・（公財）京都市ユースサービス協会**
- 共　催 **京都洛北ロータリークラブ**

### NEXT10 Years

協会として私たちが目指す社会とは? 私たちが何を担うのかを、10年後のユースサービスを見据えたビジョンを作成します。

### ユースシンポジウム・青少年・青少年団体交流会

秋に開催予定

### ユースサービス・ユースワークを伝える映像の制作

協会、センター、子ども・若者支援室、若者サポートステーション、ユースワーカーが何をしているのか、わかりやすく伝える動画を作成します。

### 記念誌発行「これからの若者育成・支援～ユースサービス協会30年の歩み～」（仮称）

30年間の社会情勢の移り変わりと協会の取り組みの変遷、歩みと、協会のこれからのビジョンを発信します。

### 青少年との共催・協力事業



### 昭和63年3月29日に協会設立

京都市において昭和30年代前半、仲間作り、キャンプ、登山などの野外活動、その他多彩な活動を行うグループが誕生していました。それら若者の息吹に応えて、昭和43年（1968年）11月に第1回グループ・リーダー・セミナーを開催。昭和45年（1970年）にはグループ活動の場として、京都市青少年ルームが設置されました。昭和49年（1974年）には前年に計画策定された「ユース・サービス・ビューロー計画」が発表され「京都市ユース・サービス委員会」が発足しました。その後、キャンプや青少年グループのスポーツ交流大会を開催したりと**青少年のグループ参加を通して人間的成長を支援するというユースサービスのねらいを推し進めてきました**。昭和63年（1988年）3月、京都市における青少年活動の拠点の設置に際し、協会の前身である「京都市ユース・サービス委員会」が取り組んできた「ユースサービス」の理念と事業を発展的に継承するとともに、様々な団体等と連携して青少年への支援活動を展開することを目的に財団法人京都市ユースサービス協会が設立されました。

### 東京23区と京都市の人口比較

東京23区の若者の人口をご存知ですか? およそ**165万人と京都市の若者の約5倍以上**です。ただし、全体の人口に占める**若者の割合は政令指定都市では京都市が一番高い**です。まさに学生のまち・若者のまち京都ですね。

### 平成24年4月1日 公益財団法人に移行

協会は財団法人として設立されました。その後法律の改正があり、一般法人もしくは公益法人への移行が必要となりました。協会では多くの方と協議を重ねながら、公益財団法人に移行しました。

### 平成28年度利用者数51万人

京都市内7カ所のセンターの年間利用者数が初めて50万人を超えたのが平成28年度（2016年）。それを記念して各事業所では**クッキーのデコレーションを行い、合作で協会ロゴマークを作りました**。平成29年度（2017年）もおそらく50万人を超える……はず。

### LIVEKIDS 25回の歴史

「LIVEKIDS～アマチュアダンス&ミュージックフェスティバル～」はこれまで25回開催してきました。**平成28年（2016年）8月にロームシアター京都にて25回記念大会を行い、いったんの幕引き**となりました。その後は若者文化の発信をテーマに形を変えて、様々な事業を展開しています。

### ユースワーカー資格取得者数27名

2009年からスタートした**ユースワーカー養成資格取得コースも10年目**を迎えようとしています。2017年3月31日現在、27名が資格を取得しそれぞれのフィールドで活躍されています。

### 12月26日クリスマスのあとと昔は言ったけど…

12月25日はみなさんご存知クリスマスです。では12月26日は……?

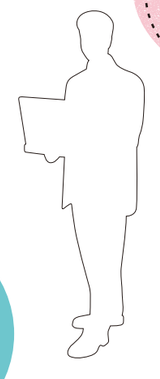
実はこの日もクリスマス。いわゆる**「ボクシングデー」**です。格闘技の「ボクシング」ではなく、**クリスマスにもらったプレゼントが入っている箱（box）を空ける日**ということのようです。その場で中身を確認するのもいいですが、1日待ってみるのもいかが?

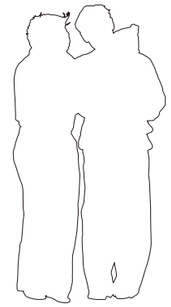
高校生が作ったページ

# 高校生が考える「働く姿」

## ～before 30年、after 30年～

最近ニュースでよく耳にする、『働き方改革』。まだ働いたことない高校生にとっては、関係ない話? いいえ、近い将来働くことになる私たちにとっても、大切な話!
働くことについて考えよう! また、京都市ユースサービス協会は30周年! 今回はそれを記念して、30年前と現在を比較し、また30年後の未来についても考えてみました。





調査担当

企画・編集

江上くん(17)　戸田くん(17)　　あかりさん(17)　　みほさん(17)

## before 30年

1980年代に、先進国の中における日本の労働時間の長さが問題として指摘されるようになり、「ワーカホリック(仕事中毒)」という用語が注目されるようになりました。それにともない、1988年に労働基準法が改正され、民間企業では1週間の最大労働時間として40時間と定められ、週休2日制が導入されていきました。しかし、その実現には多くの時間がかかり、さらに、週末の労働時間が削減された分、平日の労働時間がのび、睡眠時間が削られるなどの問題点もありました。また、当時はコンビニやファーストフード店の増加にともない、非正規雇用労働者が登場しました。

これらのことから、働きやすくしていくために、さまざまな働きかけや労働形態の変化があることがわかりました。

### 当時の高校生に将来に対してどのように思っていたか、インタビューしてみました

**Aさん**　働くことに対するイメージは強く持っていなかった。みんながしているから、せざるを得ないものなんだなという認識だった。バブル期だったことから、お金に困ることは少なく、安定よりも『なりたい夢』を仕事にしたかった。

**Bさん**　働くことに対してのイメージはそこまで持っていなかった。自分の周りが進学が当たり前である雰囲気だったので、自分も同じように進んだ。また、アルバイトは学生がするもの、というイメージが強かった。

このインタビューでは、当時は、現在の仕事に安定を求める風潮よりも、夢実現を目指す人が多かったことや、現在では多くみられるフリーターが珍しかったということがわかりました。

## after 30年

現在はブラック企業や長時間労働がニュースでも取り上げられ、各会社などでも働き方の改善が進められています。それを踏まえ、高校生と予備校生に、将来についてインタビューしました。

①将来の夢は?
②どんな大人になりたい?
③将来は明るい?暗い?&選んだ理由。

**Nさん**
①明確じゃないけど、福利厚生のある会社に勤めたい。
②自分に厳しく、他人に優しく。人にあまり怒らず、心を広く持ちたい。
③暗い。雇用がAIの進出で人が不要になって、きられていくこともあるし、ブラック企業が多いから……。

**Eさん**
①人の役に立つことがしたい。
②健康!貯金!
③暗い。ブラック企業のニュースをよく見るのと、まだ日本は海外よりも働くのに優遇されていないと思うので。

**Kさん**
①将来の夢は決まっていません。
②今は不況で、その上コンピューターの発展で仕事も減ってきているので、安定した職業を選ぶのにとても時間がかかります。やったらやった分だけお金が入るわけでもないので、なかなか厳しいですね。
③30年後は安定した給料を得て、平和に暮らせていたらいいなと思います。色んな外国にも行ってみたいです。

### 以上のインタビューを踏まえて、2人で未来について話しました

### 未来は明るいかどうかについて。

あかり：私はインタビューでもほとんどの方が答えてはるように、暗いと思う。でも、明るくなって欲しいっていう願望が強いかな。最近では、働き方改革が行われているし、これから私達が就職していくなかで、働きやすさをより求めやすくなっていってほしいな。

みほ：私は明るくなると思う。今、ブラック企業とか長時間労働が問題になっていて、どうしても暗い、怖いイメージがついているけど、それらの問題に向けて政府も対策を始めているし、今、怖いと思っている私たちが30年後には会社の上の方になってるはずだから、改善されて働きやすくなってるんじゃないかな?

あかり：やっぱり、働きやすくなってほしいっていうのはみんなが思っているよね。最近では過労死が問題視されている場面もみるし。

みほ：仕事をしすぎて死ぬのは嫌。趣味の時間も持てる会社が良いな。

### 私たちが出来ることは?

みほ：高校生向けの企業説明会とかあったらいいな。今、私たちはアルバイトが禁止されてるから、実際働くのがどんな感じなのか分からないし、ボランティアも自分の希望している将来の活動があるわけじゃないから。

あかり：確かに! それはいいかも! 高校生のうちから、働くってどういうことかな?って考えられる環境があるのは、将来絶対役に立つよね。いろいろなジャンルの企業を見ることで、自分の将来像をより考える機会にもなりそう!



### まとめ

# ユースワークの価値を考える

## ～若者へのインタビュー調査から～

京都市ユースサービス協会　水野篤夫

このシリーズも21号から始まって10回目。今回で最終回となります。そこで、ちょうど報告書として仕上がった、ユースワークの価値を明らかにしようとする調査報告書(*)から、特に大事と思われる点を紹介して、まとめとしたいと思います。今回の調査は、青少年活動センター(以下センター)を利用したり事業に関わった若者11人へのインタビューという方法を採りました。それゆえ、一定の偏りがあるともいえますが、豊かな語りを通して、ユースワークというものが持つ可能性を明らかにすることが出来たと思います。

### 1. 若者はどのようにユースサービスを利用しているのか

センターと若者の出会いは、「友だちに誘われて行った」「中学生になったら使えると知っていた」「ネットで自習できるところを検索して」などさまざまですが、最初は誰かといっしょに訪れることでハードルを下げている人が多いことも分かりました。「居心地が良さそうだな」と感じてくれた若者も多いのですが、対応する職員＝ユースワーカー(以下ワーカー)が創り出す雰囲気もそこには反映されていました。

**もともと俺、最初引っ越したときに、休みの日とか仕事終わったあと暇なとき、ひたすらゲームしてた(笑)。一日がパソコンの前で終わってしまった……！**

**学校以外のこと、何かしてみたいなと思っていて。で、ちょっと引っかかったっていうか、気になるなと思って。**

異文化理解プログラムを考える!

前者の若者はトレーニングジムを利用しにセンターに来てくれましたし、後者の若者は、センターのボランティア活動に興味を持って参加してくれました。こんな風に入り口や動機はいろいろなのですが、利用する内にセンターの事業に誘われたり、時間つぶしにロビーにいる時に、留学生といっしょにゲームをするようになったりと、さまざまに利用方法が広がっていく人もいました。調査の分析からは、センターの特徴を、利用目的の〝曖昧さ〟に見ています。最初は何か目的を持ってやってきても、さまざまな利用や参加のあり方が広がっていく可能性がそこにはあり、それ自体がセンターの大きな特徴だと分かりました(原、4章)。

### 2. ユースワークにおける〈場〉の価値

センターは、若者が活動するための場所を提供しています。集まって話したい人は会議室を借りるし、ダンスやスポーツをしたい人はスタジオや体育室を予約して使っていきます。インタビューからも多様な施設・設備を、無料で、かつ簡易な手続き・利用しやすい時間帯で使えるといった、使い勝手のいい場所としてセンターが若者たちに認識されていることが分かります。また、若者の語りには「良い空間だと思った」「居心地が良かった」という表現が数多くあり、センターが単なる場所というより、何かの相互作用の働く〈場〉として捉えられるのではないか、と調査では分析しました。若者だけで使えるといった、自分たちでコントロール出来る空間であること、多様な他者と出会う機会があること、信頼できるワーカーの居るところ、というセンターの特徴が発見されました(勝部・原、5章)。

### 3. ユースワーカーという存在

センターのワーカーは、施設を管理し、若者の活動を手助けし、人をつなぐ役割を果たすのですが、どんな風に働いているのか、インタビューを通していろいろな姿が見えてきました。例えば、「印象に残っているワーカーは誰ですか」という問いについて、「ノリのよい人」と「話やすい人」という二つの返答がありました。

清掃ボランティア

**ちょっとのノリで言っても全然やってくれるという……なんか普通に「腕相撲しようぜ？」「いいよ」って感じ。**

**すごい話やすい人、年上なのに友だちみたいな感じ。**

**友だちでもない先生でもない、職場の人でもない話を聞いてくれる人。**

そして、次の語りにはワーカーの存在をとてもよく見ていてくれる若者の姿があって、励まされます。ワーカーが10代の若者に「お前」とか言ってキレられても、怒ってしまわず対応しているのを見ての語りです。

**そもそもセンターは、うーん、人を否定しない場所ってイメージがあって、その人がその人のまま大きくなっていくのを望んでいるような感じがあるような気がする。**

そうなんです。これがワーカーが大事にしているスタンスなのです。人を否定しない二方的に評価しないと思ってくれる〈場〉づくりをしようとしている様子を、若者は端で見ていて感じ取ってくれているのです(横江、6章)。

**最初ちっちゃい世界にいた自分が外の世界を見たような……(略)……学校の友達だけで人間関係が終わって、先生と、親と、バイト先のちょっとの人と。……(略)……〈でもセンターには〉いろんな大学からいろんな事勉強してるいろんなタイプの、個性のある人がいてたので、うーん。その人達がすごい面白かった。**

ロビーでの留学生との出会いをきっかけに国際交流事業に参加するようになった若者はこんなことを言っています。

**留学生だと結構価値観が違うんで。この人全然違うんやって、じゃぁいいやってよけるんじゃなくて、価値観の違う人とそういう人という意識をもちながら接していたら、他の人が出てきたときに、結構ああ広がったみたいな感じ。**

### 4. 若者の変容・成長とユースワークの関係

若者は子どもから成人の狭間にあって、大きな変化を迫られる存在です。この変化の時期に、どのような人と出会い、どんな経験をしていくのかが、その後の人生にも大きな影響があると言われます。では、ユースワークは若者の成長や変容にどんな影響を与えるのでしょうか。若者は人との関わり方を知って、関わりのスキルを得ていき、同時に他者を受容し、ひいては自己受容につなげていくことが出来る、というのが調査での仮説でしたが、次のような語りには、そうした機会をセンターで若者が得ていた姿が端的に現されています(石山、8章)。

こうした他者との出会いというのが、センターの提供する一つの価値ですが、そこにおけるユースワークの特徴は、若者が「自ら選ぶことが出来る」という点にあります。出会いも参加も、ワーカーとやりとりすることも、若者が受け容れるかどうかを決めることが出来るのです。たださらにいえば、選べるだけでなく、選ぶのも選ばないのも容認する〝曖昧さ〟を持った〈場〉であることに意味があります。そして、〝曖昧さ〟を認めると同時に、人を排除したり否定したりしない空間をワーカーが作っていく内に、いつの間にか影響しあう関係、つまり若者も影響を与えるひとりになっていくような〈場〉を作っていくことが、ユースワークの中核となる価値なのではないか？　というのが、この調査の見出した点です。

(*)『若者の成長におけるユースワークの価値～京都市青少年活動センター利用者インタビューから～』(2017年12月発行、執筆・編集：原未来、石山裕菜、松村幸裕子、勝部皓、水野篤夫、横江美佐子、久住祐香)

シリーズ

# はたらく若者 My Happy Job Style

終身雇用制度は崩壊し，働き方が大きく変化している今日。一人ひとりで見ると、よくある話かもしれません。でも複数回を並べてみると、そのはたらく姿から現代の若者のすがたがあぶり出されるのではないか。そんな挑戦を含んだ連載を新たに始めます。

荒武 史織さん 28歳
京都市北区役所地域力推進室

**いまの仕事にたどり着くまでどんなことがありましたか**

もともと転勤の多い家庭で、千葉県で幼少期から小学校5年生まで育ち、その後、青森県に引っ越し、中高を過ごしました。大学はまた関西だったので、京都の祖母の家から通いました。

就職先は兵庫だったため、兵庫に引っ越した両親の元から通いました。2年間IT系の営業として働き、塾のアルバイトをしつつも、無職期間の後公務員試験を受験しました。なので、現在の仕事に就いて2年半になります。

**就職活動はどのようにされましたか。選んだ基準などあれば。**

学生時代は、将来について深く考えるきっかけもないまま就職活動に突入。理想をもってリクナビなどで求人を見ていましたが、12月まで内定がでなかったので、ハローワークでも仕事を探し始めました。IT企業を選んだのは、女性の活躍もではじめたころで、なおかつ福利厚生なども良かったため働きやすそうと思って。でも何より焦りもありましたね。

就活しはじめたころは、なんとなく受けていることが、向こう(採用担当者)に伝わっていたと思います。それが、最後の選ぶポイントにならなかったんじゃないかな。12月のときはとにかく必死で、「なんでもするので拾ってください」というある意味思いが伝わったのかも。(笑)なんとか就職も決まりました。

**はたらき始めてどうでしたか**

周りに合わせて、迷惑をかけないようにとは思っていました。初任者としてプレッシャーなどはなく、育ててもらっていたと思いますが、「チームとしてがんばろう」という雰囲気は感じていて、そこに初任者だからはなかったかな。2年働いてみて、利益を求めたり、営業として人とのコミュニケーションを通して、多くのことを学ばせていただきました。

塾のアルバイトを選んだのは、教育にも興味はあったからです。いろいろな子どもと接していて、自分の伝えたことで子どもが成長していってくれる達成感や責任感が魅力でした。この頃は、人のために何かをするということがとても楽しいと感じていました。

**今の仕事を選んだきっかけは?**

公務員浪人と言えばそうなのですが、必死に公務員を目指していたとは言いきれないかもしれないです。感じていました。勉強につかれて、富士山に登ってみたりもしました。(笑)

そのころ、がむしゃらに働くより、スマートに、バランスよく働くことができることに魅力を感じていました。それまでの私は、誰かに評価されたいと思っていたのですが、自分も相手も大事にしようって考えに変わっていったのかも。そのため、自分らしく長く働ける職として、公務員を目指しました。

**「暮らすこと」についてどう思っていますか**

これまでいろんな場所に住んできたので、ずっとそこにいられる仕事への憧れがあります。帰るところというイメージ。子どもながらにその地域に入っていくことをいいなと思っていましたが、反面大変なこととも感じていました。子どものときに住んだ青森でも、地域のねぶたを羨ましいと思っていました。

京都はいろいろな地域の文化とかがあって、そこに日本人として関わりたいと思う気持ちがあります。転職では、お給料を気にする人も多くいると思います。もちろんあった方が良いとは思っていますが、お金で仕事を選んではいなかったなと思います。

**いまはどんなお仕事をされているんですか。また、荒武さんの思う「はたらく観」ってどんなものですか**

区役所の地域力推進室で働いています。いまの仕事の魅力は、技術だけじゃない「人と関わること」だと感じています。人のためとか、サポートすることが私の大切にしたいことですね。私にとって「はたらくこと」は、自分がどう生きたかという生き様だと思っています。

TOPICS

# 彩り豊か！ やってみたいをサポート！

**青少年活動センターでの活動応援事業**

「こんなことやってみたいんやけど、どうやったらいいんかな?」

想いの大小はありますが、青少年と関わっている中では珍しくないセリフです。

そんな何かにチャレンジしたい思いを持っているが「悩んでいる・困っている」青少年に対し、ユースワーカーは一緒に考えながら「やってみたいこと」のサポートを市内7カ所の青少年活動センターで行っています。

今回は、これまでサポートしてきた活動の一部をご紹介します。

## 中京 いただきます。展

2016年
中京青少年活動センター
「スタートアップ for youth」

アート（特に日本画）に関心があり、アーティストと社会をつなぎたいという思いをもった青少年の相談から、センターでの作品展示『いただきます。展』の実現をサポートしました。作品を展示し、多くの利用者に観賞してもらうことができました。また、ライブペイントを実施し、観賞者に日本画が制作される様子をみてもらう機会もつくりました。実施後のふり返りでは、「『日本画を描く様子を初めてみた』等の感想をもらった」「これまで日本画に興味を持っていなかった人にもみてもらえて、感想をもらえて嬉しかった」と、達成感を得ていました。彼らはこれを機にアートグループを結成し、アートに触れるワークショップの企画運営などの活動を続けています。

## 下京 ダンスイベントCollection

2016年～現在
下京青少年活動センター
「プラン・ドゥ」

ダンスイベントを開催したいと話す男子中学生の思いから立ち上がった「ダンスイベントCollection」。慣れないながらも運営に関する様々な準備を、ユースワーカーと相談しながら進めました。初回の出演9団体・観客36名から、第2回は出演11団体・観客90名、第3回には出演16団体・観客250名と大規模なイベントになりました。主催者の彼が熱心に広報活動をおこなったことで、出演・来場者が徐々に増えていきました。『ダンスイベントCollection』を、京都を代表するダンスイベントにしたい！」と語ってくれる彼を、引き続き応援しています。

## 東山 音楽ライブ ゼストポルタ

2016年
東山青少年活動センター
「自主活動企画支援事業
～夢のスタートライン～」

当時、高校生3年生バンドの「キーマカリーズとチチワシネマ」は、受験のため活動を休止することになっていました。「最後にいつも練習している場所に人を集めてライブがしたい」との想いで、スタジオライブの企画を持ち込んでくれました。スタジオでのライブ、ロビーで弾き語りと絵の展示、創造工作室でシルクスクリーンを使ってTシャツを作るなど、彼らの多様な発想を実現するため、打ち合わせを行い、全て実施しました。ライブでは5バンドが出演し、参加者も多く集まりました。参加者からは「バンドが区役所の横でライブをするのが面白い」「ライブハウスではありえない禁煙・禁酒・土足禁止」など、一般のライブハウスとは違ったシチュエーションに意欲的な言葉が寄せられました。ライブでは〝青少年センターの歌〟というオリジナル曲も演奏してくれました。

また、ライブに来ていたバンドがセンターでのライブを開催しており、ライブ企画の走りとなりました。

## 伏見 らさんて

2017年
伏見青少年活動センター
「つながりカフェ」

伏見青少年活動センターには若者が出店できるカフェスペースがあります。大学生が「ぜひカフェを出店させてほしい」と訪ねて来てくれました。「大学生は食事が不規則になってしまう、1人暮らしだとファストフードなどで簡単にすませてしまうこともあって、ただ安いだけじゃなく栄養バランスも考えられた食事を提供できるようなカフェを運営したい」と語ってくれた彼ら。打ち合わせの末、2017年7月にセンターで開催された手づくり市に出店することになりました。素材の良さを引き出すメニューを考案し、お客さんから「おいしかった」と良い反応が得られていました。現在は店舗を持たない移動カフェとして、京都市内いろんな場所やイベントに出店しています。

### みえてくるもの

事例のように様々な企画を単発や継続的にサポートしています。企画する青少年は、計画から実施後までの経験を通して様々なものを得ることができます。そして、これらの活動を足がかりに新たな一歩を踏み出しています。このような経験の積み重ねが主体性に寄り添う活動から見えてくるものの1つではないかと思います。自ら何かを感じ、考えて、発信したいな！　と思ったとき、青少年活動センターならできるかもしれない、そう思ってもらえるような場であり続けたいと考えています。

# ユースかわら版

広報誌に関するご意見・ご感想はこちらへ

## ダンスグループ交流イベント「CONTACT@NAKASE-I」実施しました！

日ごろ中京青少年活動センターを利用しているダンスグループが交流できるイベント「CONTACT@NAKASE-I」を1月21日(日)に実施しました。「グループ名は見かけるけど、どんなダンスをしているのか知らない」「自分の踊るジャンル以外、ふれる機会がない」そんな声からダンスを楽しむ全てのグループが交流できる場を企画しました。4団体＋個人での参加も多く、ジャズ、社交ダンス、コンテンポラリーダンス、歌とダンスなど、様々なジャンルを楽しめる一日でした。

## クリスマスイブの山科に「まちかどサンタ」現る！

12月24日(日)に、やましな未来プロジェクトの一環で、「まちかどサンタ」を実施しました。サンタやトナカイの格好に扮した地元中学生や大学生のボランティアが清掃活動と風船を配りながら山科地域を練り歩きました。駅前や商店街など人通りの多い場所に突然現れたサンタたちに、子どもたちは驚きながらも風船をもらってニッコリ。南青少年活動センターから清掃活動ボランティア「ひろいーな」のメンバーも参加して、にぎやかなクリスマスイブのひとときをお届けしました。

## しもせい大学『君に届け！～みんなの恋愛観～』を実施しました

下京青少年活動センター(しもせい)では、他者の恋愛観に触れる座談会をバレンタインの時期に合わせ、2月22日・24日に開きました。中高生～社会人まで幅広い層の参加があり、『恋人が出来たら親に言う／言わない』、『デート代はどちらが払う？』など、様々なテーマで話しました。特に『男女の親友関係はあり／なし』では、「異性といる方が楽(中学生女子)」や「親友は〝同性でなければならない〟ことはない(社会人男性)」など多様な意見が出されました。今後もあまり学校では学ばない題材を取り上げて、対話と気付きの場を設けていきますので、ぜひご参加ください。

## 高校生限定　トレーニングジム が定額で使えます！

下京青少年活動センター(しもせい)のジムは、朝・昼・夕方の3つの時間帯(平日限定)から一つを選択し(高校生年代に限る)、なんと、通常1回300円のところが定額(年間2，000円)で使っていただけます！　昨年は延べ約300人の利用がありました。

ジムといえば、マッチョマンが重いウエイトを持ち上げてといった想像をするかもしれませんが、実際は男女を問わず、ランニングマシンやエアロバイクといった有酸素運動をする方も多いです。

しもせいの特徴は、挨拶だけでなく、互いにサポートしあうような、ゆるやかなつながりを感じる〝アットホーム〟なところ。初心者でも安心して運動できます。友達どうしの利用も大歓迎ですよ！　(ジムは高校生年代に限らず、30歳以上の一般の方もご利用いただけます)

## みなみのバレンタイン応援企画！「ちょこれぇと週間」

中高生にとって、バレンタインは一大事です。義理チョコや友チョコ、その中に紛れた本命チョコ、一人で30人分作るような若者も。そんな、大量にチョコレートを作る若者を応援したい！　という思いで開催した「ちょこれぇと週間」。広い料理室を複数のグループでシェアしたり、お菓子教室を開いたり。2月10日(土)～13日(火)のバレンタイン直前まで、チョコレートづくしの南青少年活動センターでした。

そして、2月8日(木)には、「レンアイカフェ」も実施しました。長年みなみで若者の恋愛相談にのっているあかたちかこさんと、結婚のこと、パートナーのことなどを、若者たちと語り合いました。

## ご寄付いただきました。

京都市ユースサービス協会では多くのご支援・ご寄付をいただいております。2017年度末までにご寄付いただいた個人・団体様について、ご紹介させていただきます。

Sリーグ運営委員会 様
中島 美里 様
京都新聞洛南販売所 様
辻 貴子 様
江田 薫 様
橋本 達雄 様
ユースシンポジウムの皆様
佐藤　正和 様
伏見青少年活動センターの皆様
LIVEKIDSスタッフ一同　様
株式会社GP 様

(順不同)

合計476,003円のご寄付をいただいております。(2018年3月15日 現在)
いただいたご寄付については、当協会の取り組み、ご指定いただきました事業に活用させていただきます。誠にありがとうございました。

30 anniversary 周年
KYOTO CITY YOUTH SERVICE FOUNDATION

発行
公益財団法人京都市ユースサービス協会
〒604-8147
京都市中京区東洞院通六角下ル御射山町262
京都市中京青少年活動センター内
TEL: 075-213-3681　FAX: 075-231-1231
E-mail office@ys-kyoto.org　http://www.ys-kyoto.org
印刷：株式会社谷印刷所　デザイン：株式会社オム